大村・沢宮 (2024). 容装心理学研究, 3(1), 46-49.

青年期における醜形恐怖心性と自己受容感および賞賛獲得欲求・拒否回避欲求との関連[1]

大村美菜子 東京未来大学・沢宮容子 東京成徳大学

Relationship between dysmorphobia tendency and self-acceptance and need for approval in adolescents

Minako OHMURA (Tokyo Future University) and **Yoko SAWAMIYA** (Tokyo Seitoku University)

This study aimed to examined the relationship between dysmorphia tendency, and self-acceptance and need for approval. Participants included 536 university students. The results showed that "self-acceptance" mediated "rejection avoidance" and had an effect on "dysmorphia tendency." In other words, people who cannot accept themselves as they are do not want to be disliked by others and are more concerned about their appearance.

Keywords: dysmorphobia tendency, self-acceptance, praise seeking, rejection avoidance

近年，自分の容姿に悩む人たちが増えてきている。内閣府(2018)による，我が国と諸外国の 13 歳から 29 歳までの男女約 1000 名を対象にした調査では，現在の悩みや心配ごとについて，「容姿のこと」は 54.7%であり，前回調査（2013）の 50.3%よりも増加している。また同調査では自分への誇りの有無についても尋ねており，「容姿」に対し「誇りを持っている」と答えた人は 31.9%であり，他の項目に比べ最も低かった。朝日新聞の調査（2017）によると，「あなたは，自分の見た目を気にしていますか」という質問に対し，「とても気にしている」が 26.4%，「ある程度気にしている」が 59.2%，と 8 割が自分の見た目を気にしていることが報告されている。容姿を気にする概念として，醜形恐怖心性がある。大村（2015）は，健常者における容姿に対するこだわりを醜形恐怖心性と名付け，『自己の容姿に対する強いこだわりであり，容姿全体あるいは一部分に強い関心を向ける傾向』と定義している。一方で，病理である醜形恐怖症とは，鍋田（2004）によれば，客観的には醜くないと思われる容姿について，“異様に醜い”と悩む病態である。醜形恐怖症は増加の一途をたどり，アメリカにおいては醜形恐怖症と診断された者が 520 万以上いることが報告されている（Weiss, 1995）。そして現代においては，醜形恐怖症まではいかないものの，健常者における容姿へのこだわりである醜形恐怖心性を有している若者が多いことが明らかにされている（大村他，2015）。

醜形恐怖心性と自己受容感およびと賞賛獲得欲求・拒否回避欲求

容姿へのこだわりの背景には何があるのであろうか。大村他(2015)では，賞賛獲得欲求・拒否回避欲求が醜形恐怖心性に関連していることが示されている。賞賛獲得欲求とは他者から肯定的な評価を得ようとする欲求である(菅原，1986)。一方で，拒否回避欲求とは，他者からの否定的な評価を避けようとする欲求である。

また青年期においては，自己肯定感の低さがたびたび指摘されているが，それも容姿へのこだわりに関連していることが示唆されている。青年期の自己肯定意識の対自己領域は，自身の良い面も悪い面も関わらず自身を受け入れる状態である「自己受容」，自身の目標のために前向きな状態である「自己実現的

---

1 Corresponding author at: Minako OHMURA(E-mail: omura-minako[at]tokyomirai.jp)

態度」，普段の私生活において様々な視点から充実していると感じる状態である「充実感」の 3 領域に分けられている（平石，1990）。平石（1990）は，こういった自分への満足感の低さと自己の容姿を肯定できないことが関連していると指摘している。また，田場・倉戸（1995）によれば，自己受容感が高い人は男女ともに身体満足感が高く，反対に自己受容感が低いと身体満足感が低くなるという。すなわち自分のことを肯定的に受け入れられない場合，自己の容姿にも満足感を得られなくなるといえる。身体満足感と醜形恐怖心性の関連が報告されていることから（大村，2015），身体満足感と同様に醜形恐怖心性の背景に自己受容感の低さがある可能性も考えられる。

さらに自己肯定感と拒否回避欲求との関連も指摘されている（高濱他，2014）。藤井（2013）は，自己を否定的に認知しているほど，他者から拒否されたくないという気持ちが強いことを報告している。未だアイデンティティが確立していない青年期においては，自己を肯定的に捉えられないことで，他者からの評価，とりわけ他者から嫌われたくないという気持ちに影響している可能性が示唆される。

以上のように，醜形恐怖心性には賞賛獲得欲求・拒否回避欲求だけでなく，自己を受容できないことも背景にあることが考えられる。そして，例えば，自己を肯定的に捉えられないことで他者からの評価に敏感になり容姿へのこだわりに影響するなどが考えられる。つまり，賞賛獲得欲求や拒否回避欲求が自己肯定感と醜形恐怖心性との間を媒介している可能性が考えられる。

目的

本研究では，自己受容感が醜形恐怖心性に関連しているかについて明らかにする。その際，両者の間を賞賛獲得欲求・拒否回避欲求が媒介しているかを検討する。

方法

調査対象者および手続き

大学生 536 名（M = 19.20 歳，SD = 1.12）を分析対象とした。

2022 年 12 月および 2023 年 7 月～10 月に都内の大学 2 校と東北の大学 1 校において，授業時間中に Google フォームを用いてオンライン上でアンケートに回答を求めた。回答時間は約 15 分であった。なお実施に際して，本調査は強制ではないこと，回答内容は統計的に処理され個人情報が漏洩する心配のないことを質問紙に明記した上で，口頭で教示した。なお本研究は，第 1 著者の所属する大学における倫理委員会の承認を経て実施した。

調査内容

醜形恐怖心性尺度（9 項目） 大村他(2014)によって，醜形恐怖心性を測定するために作成された尺度である。全 9 項目で構成されている。作成者により再検査信頼性および収束的妥当性，弁別的妥当性，併存的妥当性が確認されている。回答は“非常にあてはまる (5)”から“全くあてはまらない (1)”までの 5 段階評定で求めた。本研究における信頼性係数は α = .78 であった。

賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度 （18 項目） 小島・太田・菅原 (2003) によって作成された，承認欲求の 2 つの方向性（他者の賞賛の獲得，他者の拒否の回避）を測定するための尺度である。「賞賛獲得欲求 (9 項目)」と「拒否回避欲求（9 項目)」の全 18 項目から構成されている。作成者により再検査信頼性および併存的妥当性が確認されている。“あてはまる (5)”から“あてはまらない (1)”までの 5 段階評定で回答を求めた。本研究における信頼性係数は賞賛獲得欲求が α =.76，拒否回避欲求が α =.78 であった。

自己受容感尺度（8 項目） 平石（1990）によって作成された自己肯定感尺度のうち，自身の目標のために前向きな状態である「自己受容」を使用した。「自分の良いところも悪いところもありのままに認めることができる。」などの全 8 項目からなる。作成者により再検査信頼性および併存的妥当性が確認されている。そう思う (5) からそう思わない (1) までの 5 段階評価で回答を求めた。本研究における信頼性係数は α = .85 であった。

結果

醜形恐怖心性と自己受容感および承認欲求との関連

醜形恐怖心性と自己受容感および承認欲求との関連について．相関係数を算出した（Table 1）。

その結果,「醜形恐怖心性」と「自己受容感」との間に r=-.145（p = .001）と弱い負の相関が認められた。「醜形恐怖心性」と「賞賛獲得欲求」との間に r=.319（p < .01），「醜形恐怖心性」と「拒否回避欲求」との間に r =.261（p < .01）と，それぞれ弱い正の相関が認められた。「自己受容感」と「賞賛獲得欲求」との間には r=.235（p < .01）と，弱い正の相関が認められた。一方で「自己受容感」と「拒否回避欲求」との間には r=-.385（p < .01）と，弱い負の相関が認められた。

媒介モデルについての検討

「自己受容感」と「醜形恐怖心性」が「賞賛獲得欲求」または「拒否回避欲求」に媒介されているかを検討した。「自己受容感」を独立変数,「醜形恐怖心性」を従属変数,「賞賛獲得欲求」「拒否回避欲求」のそれぞれを媒介変数とした媒介分析を行った（Figure 1，Figure 2）。

「賞賛獲得欲求」に媒介されるモデルにおいてブートストラップ法（ブートストラップ標本数 2000）を用いた有意性の検定を行ったところ,有意な間接効果が確認された（95%CI: ［-0.144, -0.059］）。「自己受容感」から「醜形恐怖心性」へのパスの値は -.14(p<.01)から -.23(p<.01)へと変化した。したがって,「自己受容感」が「賞賛獲得欲求」に部分的にではあるが抑制的に媒介され「醜形恐怖心性」へと影響していることが確認された。「自己受容感」から「賞賛獲得欲求」へのパスは .24(p<.01),「賞賛獲得欲求」から「醜形恐怖心性」へのパスは .37(p<.01)であった。

Table 1　醜形恐怖心性と各変数の関連

	醜形恐怖心性	自己受容感	賞賛獲得欲求
自己受容感	-.145 **	---	
賞賛獲得欲求	.319 **	.235 **	---
拒否回避欲求	.261 **	-.385 **	.073 +

** p < .01, * p < .05, + p < .10

Figure 1 賞賛獲得欲求による自己受容感と醜形恐怖心性の関連の媒介

** p<.01

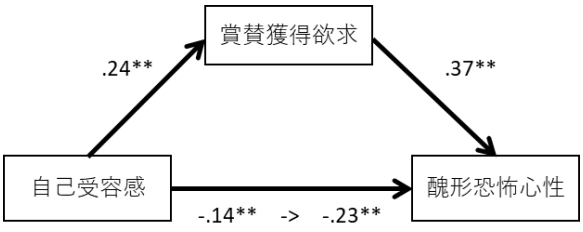
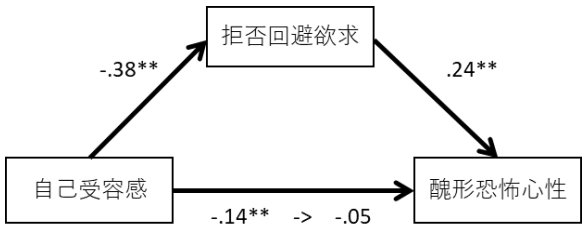


Figure 2 拒否回避欲求による自己受容感と醜形恐怖心性の関連の媒介

** p<.01



「拒否回避欲求」に媒介されるモデルにおいてブートストラップ法（ブートストラップ標本数 2000）を用いた有意性の検定をおこなったところ, 有意な間接効果が確認された（95%CI: ［-0.103, -0.046］）。「自己受容感」から「醜形恐怖心性」へのパスの値は -.14(p<.01)から -.05($n.s.$)へと変化した。したがって,「自己受容感」が「拒否回避欲求」に媒介され「醜形恐怖心性」へと影響していることが確認された。「自己受容感」から「拒否回避欲求」へのパスは -.38(p<.01),「拒否回避欲求」から「醜形恐怖心性」へのパスは .24(p<.01)であった。

考察

本研究は，自己受容感と醜形恐怖心性の関連を賞賛獲得欲求・拒否回避欲求が媒介しているかを検討した。分析の結果，自己受容感が拒否回避欲求に媒介されて醜形恐怖心性に影響しているモデルが確認された。すなわち，自己を受容できないことが単純に容姿へのこだわりに影響しているだけではなく，他者からの否定的な評価回避の欲求によって容姿へのこだわりが生じている可能性がある。なお，自己受容感と醜形恐怖心性が，賞賛獲得欲求に抑制的に媒介されていることも確認された。賞賛獲得欲

求は，拒否回避欲求と逆の方向での影響力を有していることが示唆されたといえる。この点についてはさらに検討を重ねる必要がある。

先述したように，現代においては身体醜形障害まではいかないものの容姿に悩む若者が多い。自己受容感の低さや他者からの否定的な評価回避の欲求など，醜形恐怖心性の一因が確認されたということは興味深い結果といえよう。

利益相反

申告すべきものは無い。

引用文献

朝日新聞デジタル (2017). 人は見た目が何%？ Retrieved February 21, 2023 from https://www.asahi.com/opinion/forum/049/

藤井 勉（2013）. 青年期における有能感の 4 類型と賞賛獲得欲求· 拒否回避欲求との関係 人文科學研究, *31*, 206-220.

平石賢二 (1990). 青年期における自己意識の発達に関する研究（Ｉ）―自己肯定性次元と自己安定性次元の検討― 名古屋大学紀要（教育心理), *37*, 217-234.

小島弥生・太田恵子・菅原健介(2003). 賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度作成の試み 性格心理学研究, *11*, 86-98. https://doi.org/10.2132/jjpjspp.11.2_86

内閣府(2018). 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査 Retrieved February 21, 2023 from https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/h30/pdf-index.html

鍋田恭孝(2004). 容姿の美醜に関する病理―醜形恐怖症を中心に― こころの科学, *117*, 31-40.

大村美菜子・小島弥生・中田洋二郎・沢宮容子 (2014). 女性の醜形恐怖心性尺度の作成 日本応用心理学研究, *40*, 186-193. https://doi.org/10.2132/personality.30.2.9

大村美菜子 (2015). 青年期女子における醜形恐怖心性とその関連要因 風間書房

菅原健介 (1986). 賞賛されたい欲求と拒否されたくない欲求--公的自意識の強い人に見られる 2 つの欲求について-- 精神科診断学, *15*, 15-24. https://doi.org/10.4992/jjpsy.57.134

田場あゆみ・倉戸ヨシヤ (1995). 青年期後期における身体像と自己受容, 他者受容との関係について 大阪市立大学生活科学部紀要, *43*, 225-236.

高濱怜美・沢崎達夫（2014）. 大学生の非主張性とその規定因との関連 目白大学心理学研究, *10*, 1-10.

本研究では醜形恐怖心性と自己受容感および賞賛獲得欲求および拒否回避欲求との関連について検討した。調査対象者は大学生 536 名であった。結果として，青年期においては，「自己受容感」から「拒否回避欲求」を媒介し「醜形恐怖心性」へ影響を与えていた。すなわち，自身の良い面も悪い面も受け入れられない状態にある場合，他者からの否定的な評価を避け，容姿へのこだわりを強めることが明らかになった。

― 2023. 11. 29 受稿，2024. 3. 13 受理 ―